

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

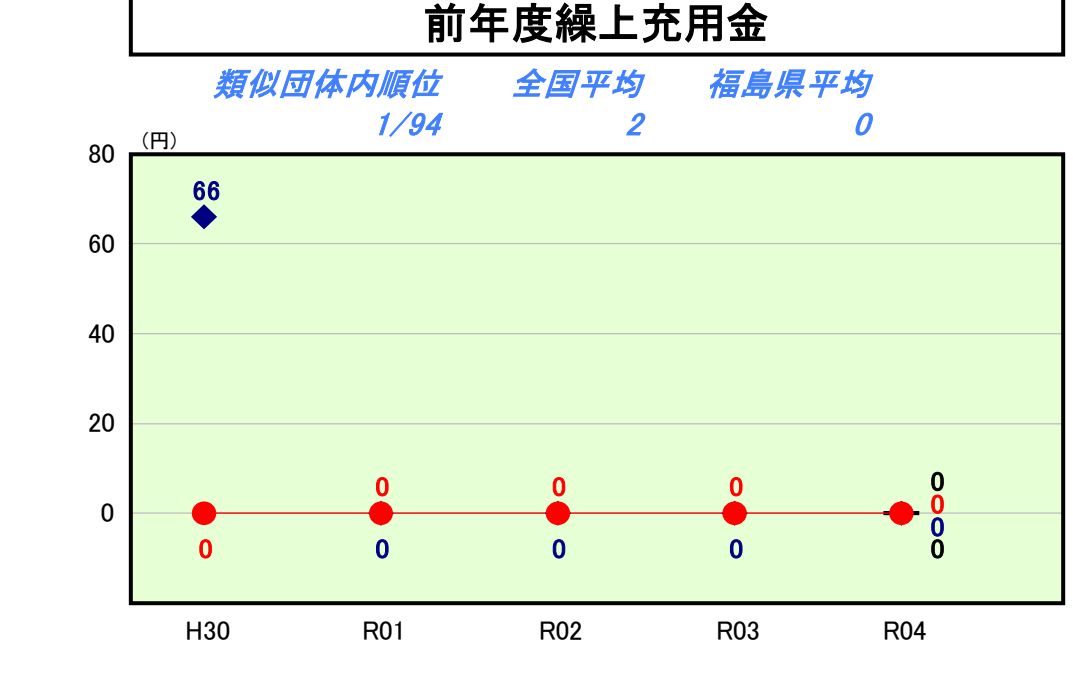
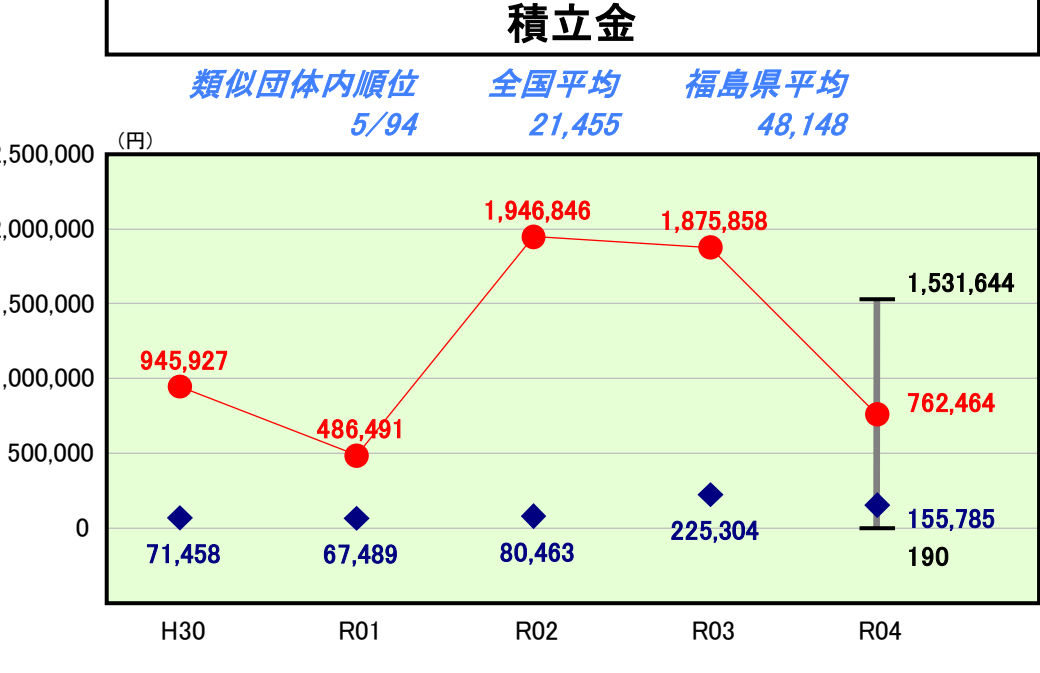
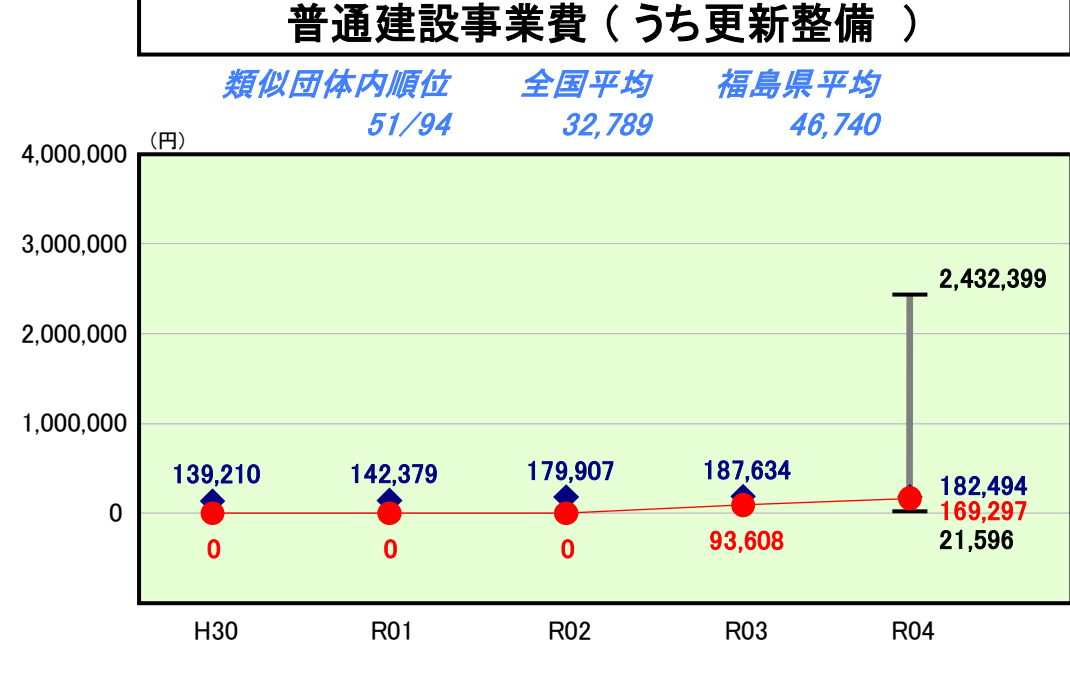
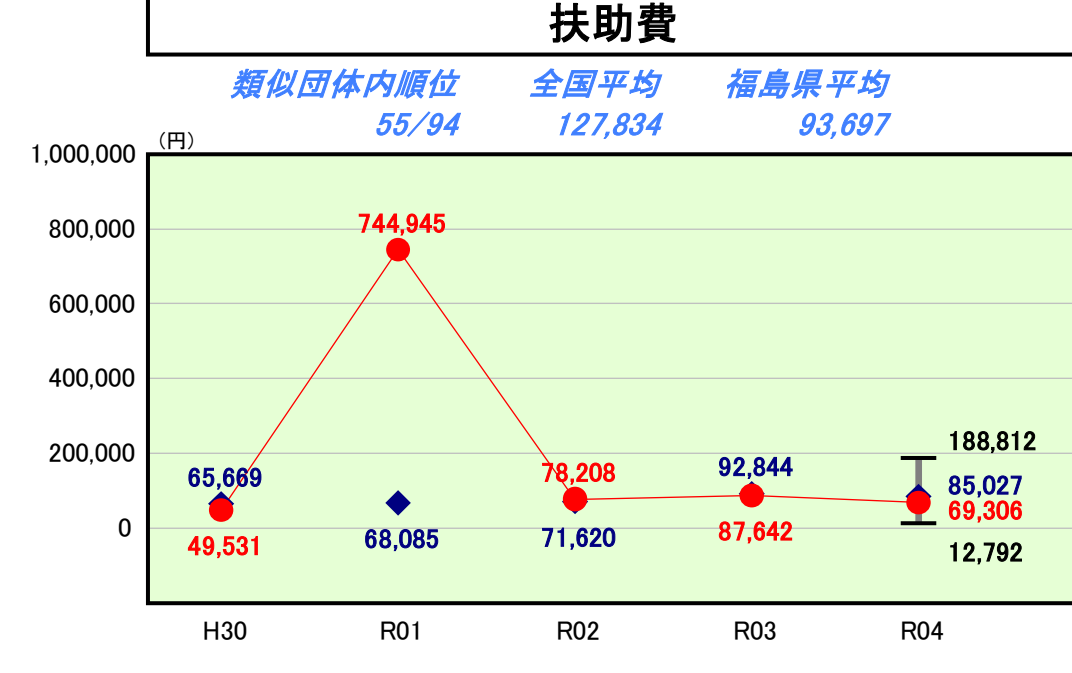
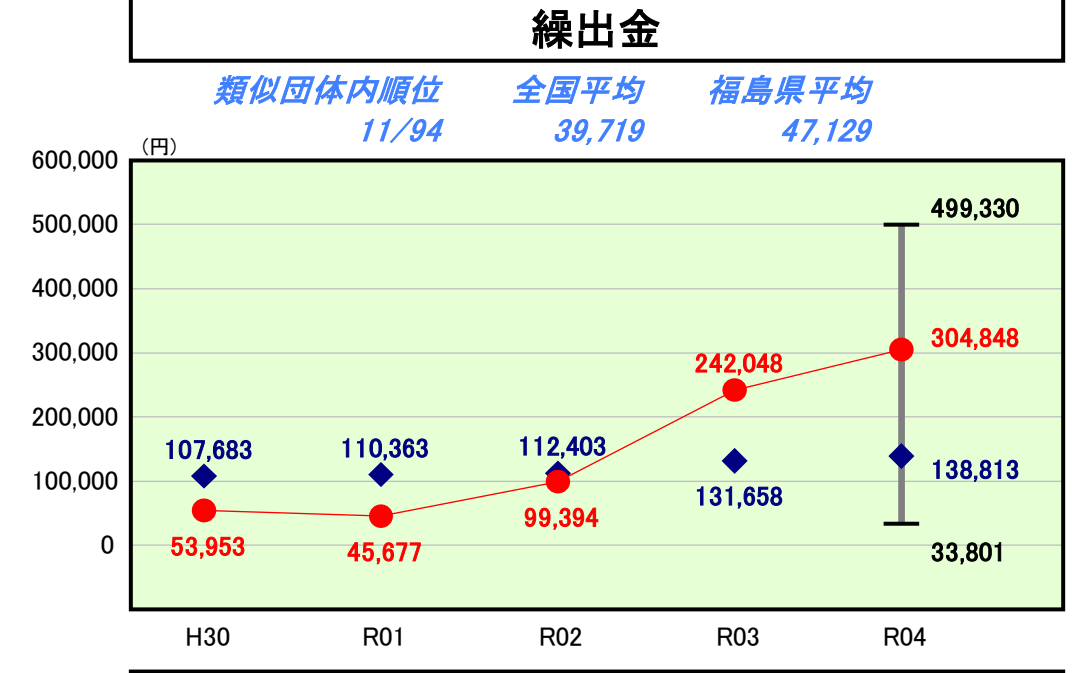
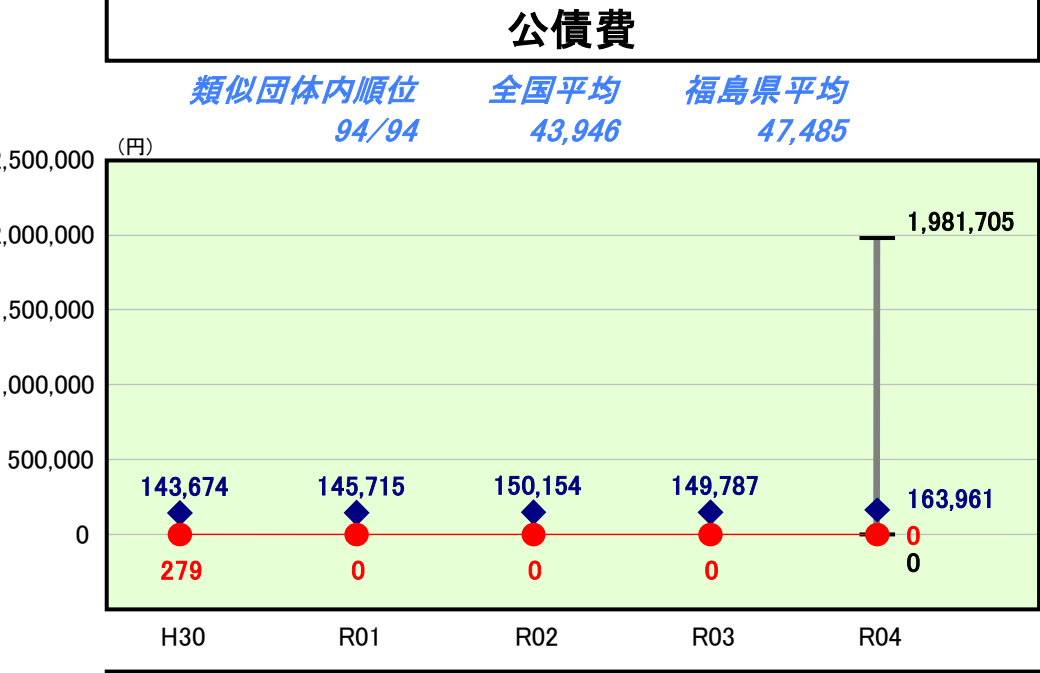
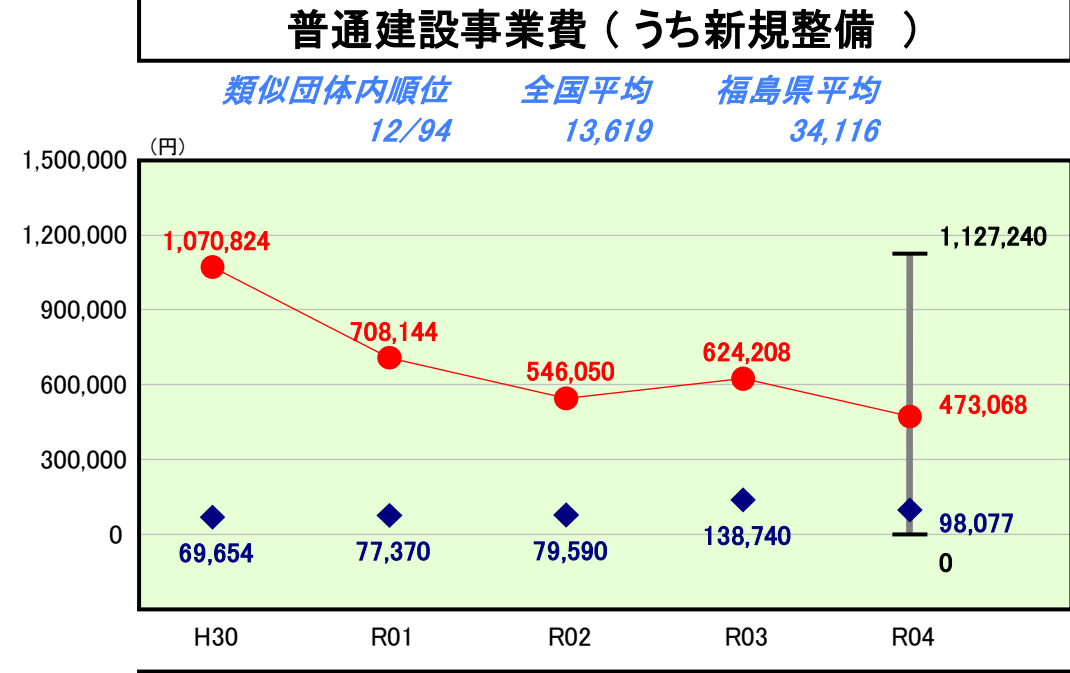
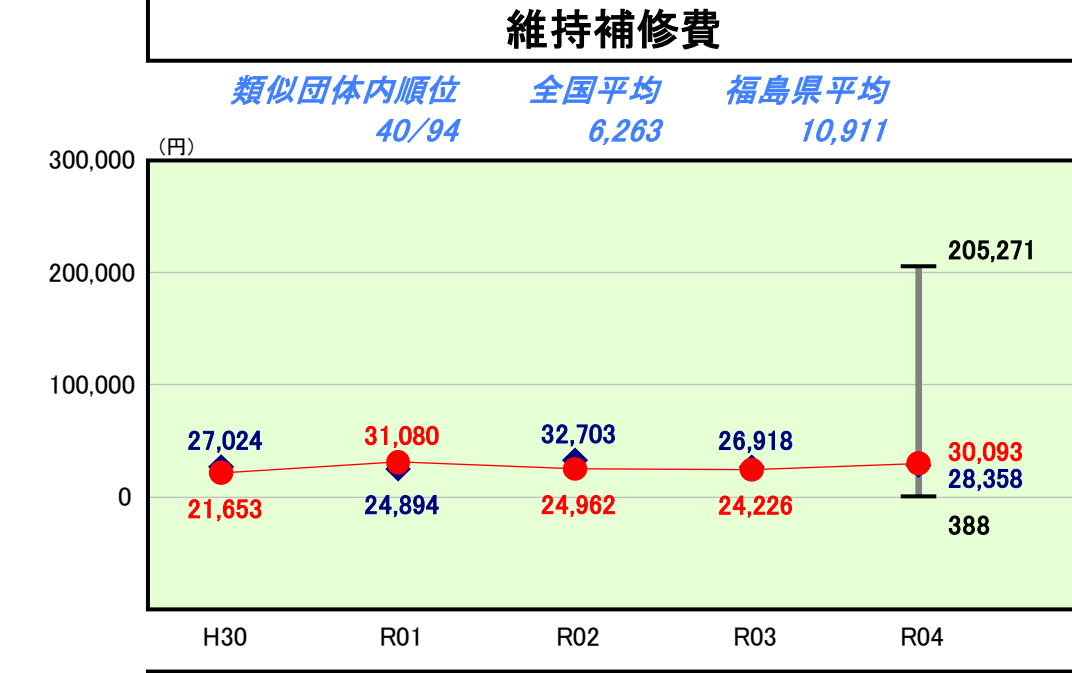
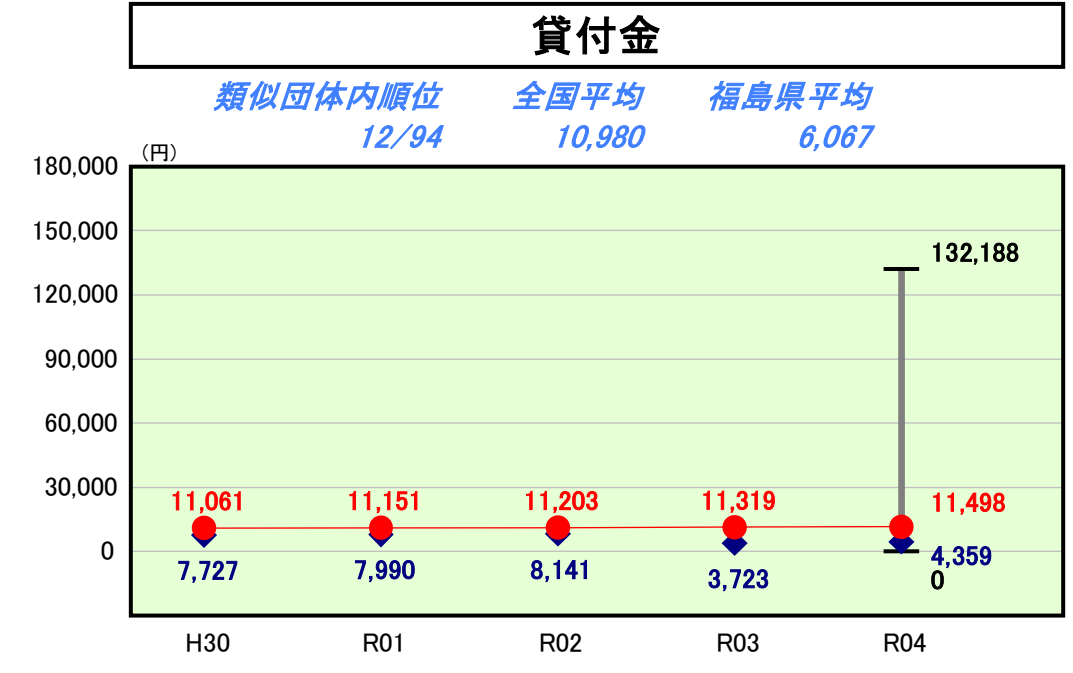
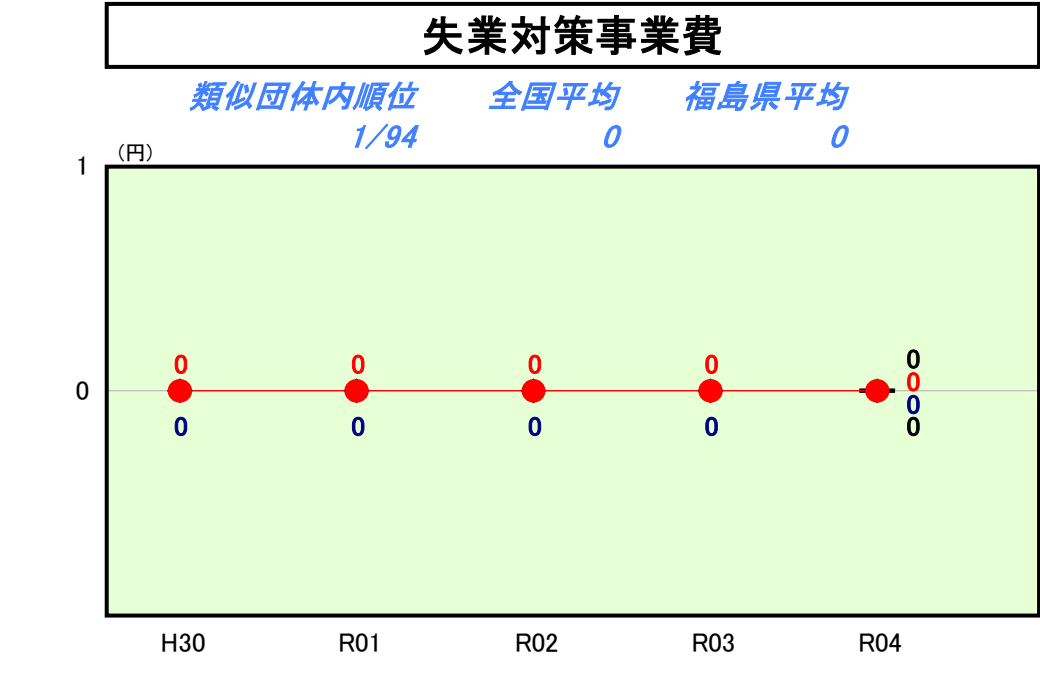
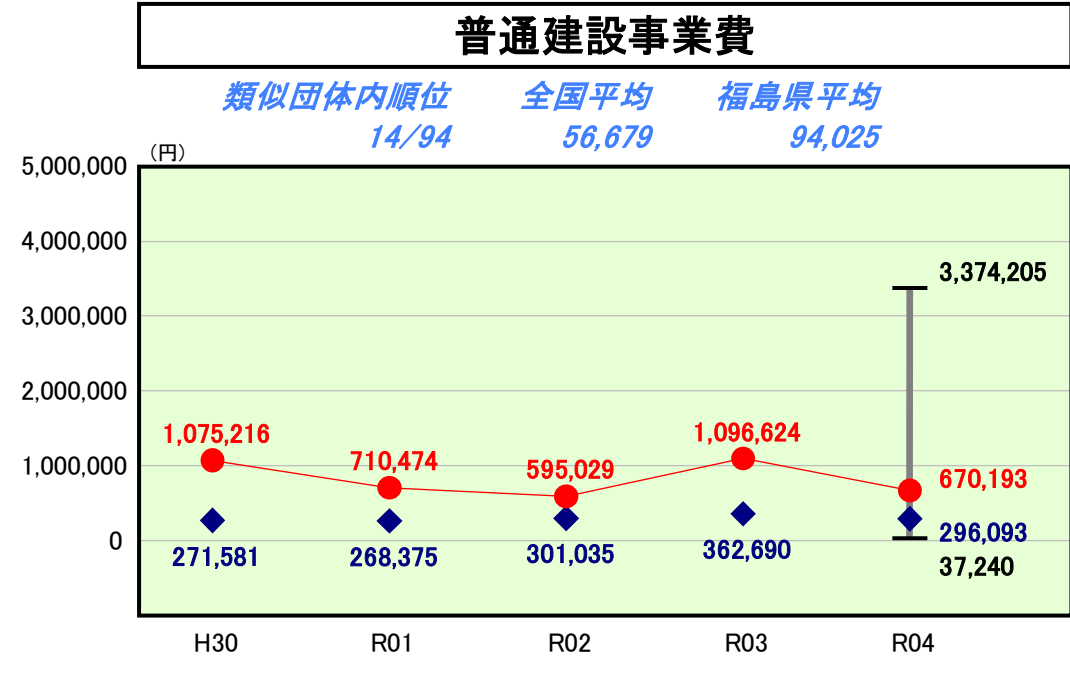
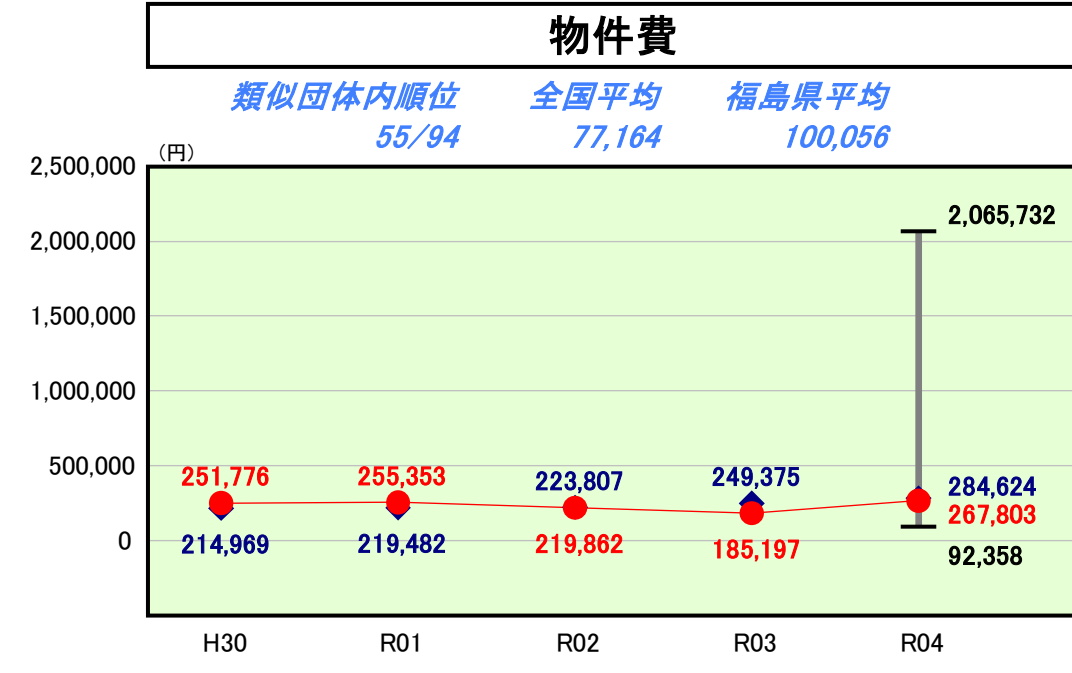
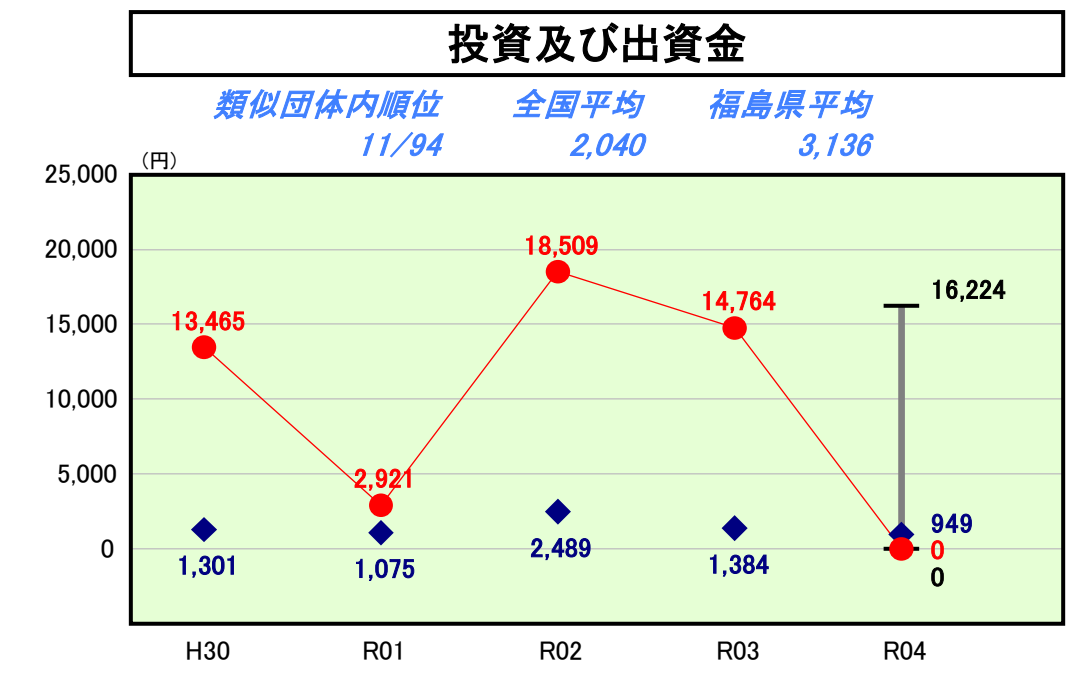
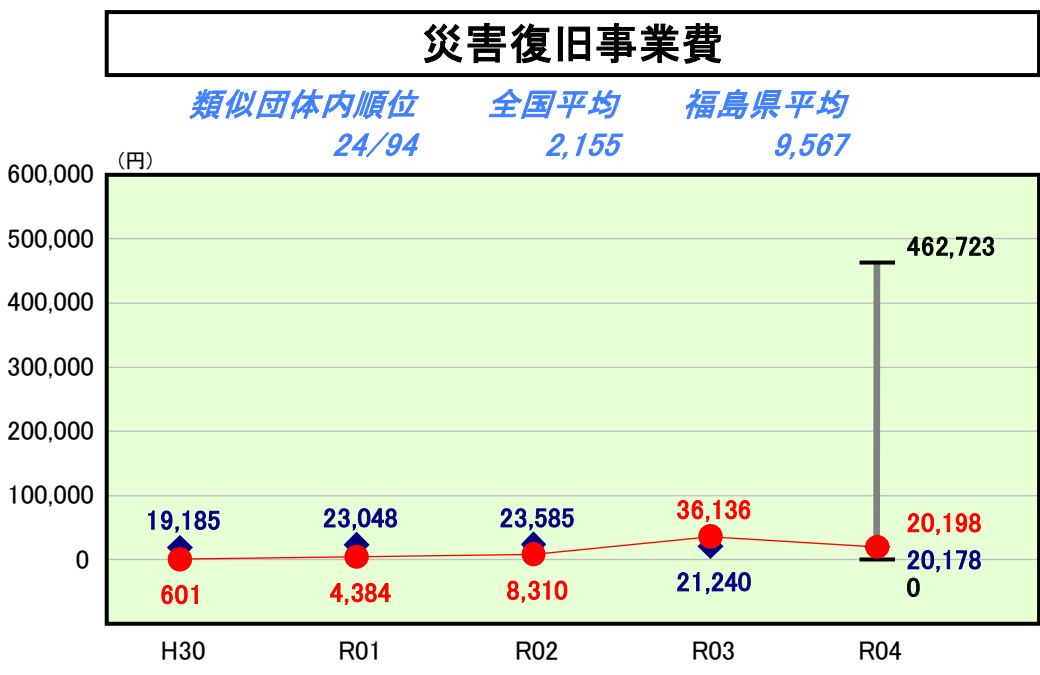
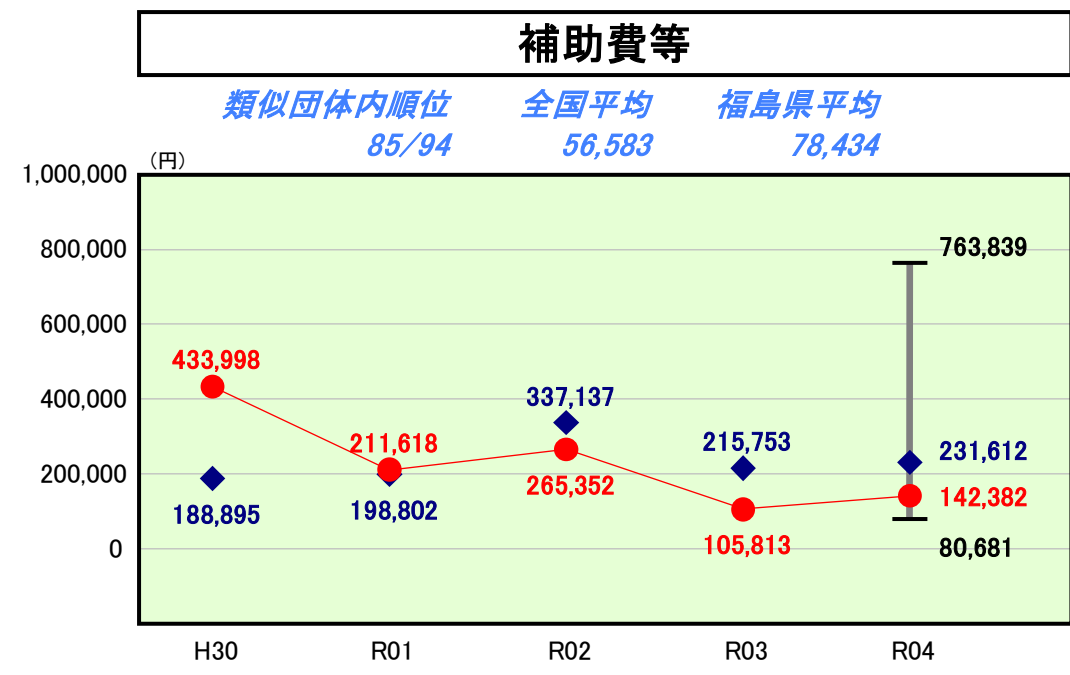
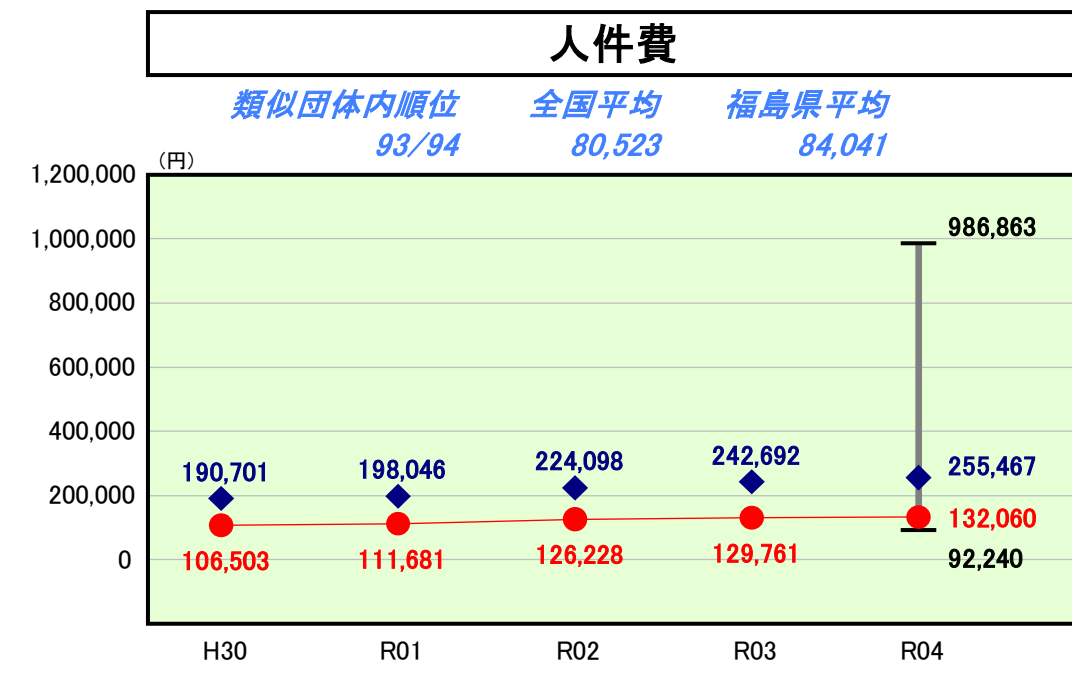
令和4年度

福島県大熊町

人口	10,002人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	9,958人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	78.71km ²	実質公債費比率	-1.8%
歳入総額	33,320,383千円	将来負担比率	-%
歳出総額	24,113,271千円	市町村類型	H30 I-0 R01 I-0 R02 I-0
実質収支	957,567千円	(年度毎)	R03 I-2 R04 I-2
標準財政規模	6,819,303千円		
地方債現在高	0千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

住民一人当たりのコストは2,410,850円となり、前年度と比較して1,398,538円減となった。これは積立金が前年度比1,113,394円減、普通建設事業費が前年度比426,426円減となったことが主な要因である。
 しかしながら、普通建設事業費や積立金は類似団体の平均を大きく上回っている。これらは特定復興再生拠点区域の整備事業や特定目的基金への積立等が増加したことが要因である。
 普通建設事業（新規）や基金取崩事業のための積立金については、今後も多くの復興事業が計画されることから、当面の間、類似団体よりも高い水準で推移すると見込んでいる。